

その紅茶には
物語がありました。

山を愛する人のための紅茶

鳥取県には、大山(だいせん)という山があります。私たちの住む米子市側から見ると富士山のような美しい形をしていて、古くから伯耆富士(ほうきふじ)・伯耆とは、昔の伯耆国の名残で、鳥取県中西部から鳥根県東部の一部地域「帯」を指す。大山は、「伯耆富士」「伯耆大山」「ほうきだいせん」と呼ばれていた。と呼ばれています。ある時、大山にある老舗ホテルの担当者さんから、オリジナルの紅茶を作って欲しいというご依頼をいただきました。そのホテルは、大山の山奥にある大きな宿泊施設で、夏は登山客、冬はスキー客とたくさんの方が集います。いわゆる、山好きの人たちが泊まるホテルなのです。それならば、せっかくだから、山を愛する人のための紅茶を作ろうと思っただけです。山登りやスキーだけではなく、キャンプ、沢登り、森林浴に紅葉狩り、山の中に分け入っていく人も、遠くから山を眺めたい人も、とにかく、山や緑が大好きな人たちが、山と共に、山に抱かれ、もしくは、山を愛でながら、おいしく飲めるブレンドにしようと思っただけです。少し話が逸れるのですが、私はゴジラが好きです。日本のゴジラと...



Takajou
by Maiko Inoue

ONDE



「77億人に、77億通りのブレンドを」という志を掲げる、
ゴールドティーマイスター・遠藤麻衣子氏が
鳥取県米子で立ち上げたティー・ブランド
「ONDE(オンド)」のパッケージデザイン。
贈り物ではなく自分のための紅茶時間を提供するために、
既製包材にラベルのみという条件が出された中で
物語を読むパッケージを制作しました。



「商品について教えてください。」その回答は4,000文字の物語でした。

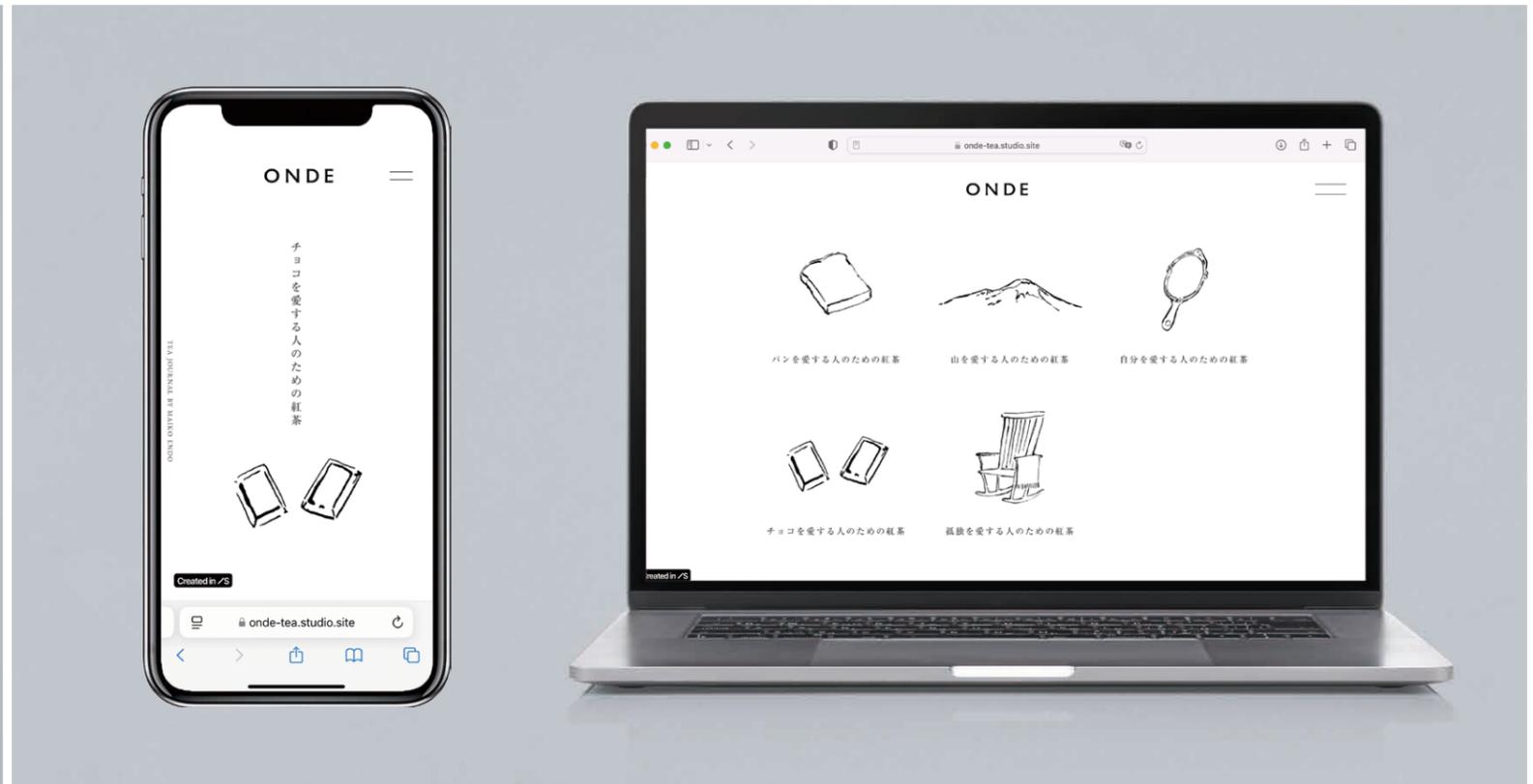
デザインのヒアリングを行った際に、商品についての質問しました。その回答は4000文字の原稿用紙でした。

そこには、紅茶ができるまでのプロセスはもちろん彼女の経験や出会った人物、そこから生まれた思いなど、この紅茶を取り巻く「物語」が綴られていました。

この紅茶のおいしさを伝えるのはシズル写真や訴求コピーでもない。そこで読み物のようなパッケージを制作することにしました。

“～を愛する人のための紅茶”として様々な時間を共にする紅茶をシリーズで展開。

現在も「海を愛する人のための紅茶」や「バターを愛する人のための紅茶」など新商品も開発中。



ONDE（オンド）というネーミングは、紅茶で最も大切な「温度」と
つくり手の「温度」を意味するとともに、遠藤：ENDOのアナグラムになっている。

パッケージに掲載されたストーリーは「つづく」の文字で締め括られ、
QRコードから物語の続きが読める仕様に。その先には紅茶ごとの美味しい淹れ方を知ることができる。